

最新作

映画「Wednesday ~アナザーワールド~」



STORY
有名になると役を巡り言い争いが絶えない劇団に、不思議な力を持った謎の少女が現れた。劇団の解散を宣告したオーナーは、少女の力を利用して金儲けを企むが……。

教えて

ミライ・アクターズ・プロモーション

女優 & 俳優 &

俳優になるチャンスをつかもう!

アーティスト デ☆ビューへのヒミツ

「デ☆ビュー」7月号で出演者を募集したミライ・アクターズ・プロモーションの最新作「Wednesday ~アナザーワールド~」がクランクイン! 今回も多くの新人が出演を果たした。映画の撮影現場風景とは? MIRAIを知って、アナタもスクリーンデビューを目指そう!

撮影/古賀良郎 取材・文/河上いつ子 スチール/CMIRAI

俳優志望者は必見!

出演者が語る“現場デ☆ビュー”の心得



「自分を知らないといけない仕事」(原田龍二)

「現場に入るときは、芝居のやりとりで闘うつもりで臨みます」(FLAME/北村悠)

「継続して努力することが必要だと思います」(山本博子)

「現場で皆さんを見て、教えてもらいます」(土岐田麗子)

「とにかく役者は輝いていなければいけない」(原田大二郎)

左から: 神品信市プロデューサー、原田龍二、北村悠、山本博子、土岐田麗子、原田大二郎

神品信市プロデューサー「今回の映画は何かでしたでしょうか?」
北村悠「現場の雰囲気がよくよくその雰囲気がきつと映画に出ていける感じがしますね」
原田龍二「劇団員を演じていた若い新人の方々のエネルギーがすごかったですもんね。若さっていいなって思いました」
神品「劇団員役にはオーディションで抜擢された映画初参加の新人がたくさん出演しましたからね。皆さんは初めて現場に出たときに心掛けたことや気にかけたことはありますか?」
土岐田麗子「私は初めて行く現場とか初めてやらせていただくお仕事のときは、いろいろ考えても結局わからなくて、緊張するだけなので、何も考えずに臨んで、現場で皆さんを見て、教えてもらったりしようと思っていました」
山本博子「私はまだまだ新人ですが、心掛けているのは継続と努力です。初めて映画に出演したときは、カメラ位置がわかっていなくて、カメラに背を向けていて怒られたり、苦い経験をたくさんしたんですが、何回か出演させていだいていううちにわかっていくし、まわりの状況も見えるようになってきました。その経験からも継続して努力することが必要だと思います」
原田龍二「僕は一番大切なのは、集中することだと思います。たとえば、仕事が終わった後、飲みに行くとかデートする約束をしていたとしても、仕事は一切そのことは考えないで、この現場で自分が何をやるか、ということだけを考えることに集中する」
原田大二郎「そのとおりだね。僕は今、学生たちに芝居を教えているんだけど、「集中しろ」と言うのと「どうし

たらいいんですか?」って聞かれることがあるんだけど、龍二さんの言うとうことが集中するということ。ただし、まわりが見えていなければいけないから、硬く閉ざして集中するんじゃなくてまわりの必要な音はきちんと拾える状態で自分を置いたうえで集中する」
土岐田「あと、大切なのはやりたいたいと思う気持ちだと思います。そしてやりたいことを好きでいること」
原田大二郎「そして自分を信じていることだね。自分はこの世界でやっていける人間だと。でも僕はまずは新人の子には「目指すのはお止めなさい」とアドバイスしたい。それでも乗り越えてこられる根性のある人だけが残っている世界だと思ってるから。僕自身、37歳のときに1年間仕事がないことになったことがあって、どうしていいかわからなかった。でも、とにかく役者は輝いていなければいけない仕事はくはずだと思ってるから、とにかく自分に輝け輝けと言いつづけてた。常に「お前は今輝いてるか?」と自分に問いかけていた。そしたら1年くらいいたらほんとうに輝いてきたみたいなんだけど」
原田龍二「役者は自分と向き合うことも大事なことなんです。まず自分辛い作業はあるけど、まずは自分を知らないといけない仕事ですからね」
北村「僕は現場に入るときは、皆さんと芝居のやりとりで闘うつもりで臨んでいるんですよ」
原田大二郎「役者にとって、現場は戦場だからね。それくらいの意気込みがないとこの世界はやっていけないというのを役者を目指す人たちは知っておいてほしいですね」

オーディションで

新人俳優を大バツキ!

大塚「何度が映画のオーディションを受けてきて、自分のキャラクターが固定されているような感覚があったので、今回は、それを壊してやろうというつもりで、いつもと違う感じの自分で臨みました」
片岡「自分もいつもおちゃらけたイメージなので、今回は違う自分を出せるように、オーディションでは目の力と口元に気をつけました。初めてオーディションを受けたときは、口元が震えるし、目もうつろだし、セリフも忘れちゃうし大変でした(笑)。それに比べると、今はどうしり構えられるようになったと思います」
小島「私は今回初めて合格して、すごい達成感がありました。もちろん、まだまだ課題はいっぱいですけど、ワンステップ上に行けたかなと」
近藤「私は今回、元ヤンキーという、見た目も中身も自分とは正反対の役をいた

いて、監督にも「全然違うけど頑張ってる」と言われたんですけど(笑)、むしろ演じるのが楽しかったし、出ま上がりがすごく楽しみなんです。この経験は大きな力になると思います」
大塚「演技は常に目の前に壁が現れて、越すのが苦しいし大変なんだけど、越えたとときが楽しくて、その連続です。今まで演技を学んできて、その繰り返しのなかで、どんどん芝居に対する熱が上がついてるし、どんどん芝居が好きになっていくのを感じています」
片岡「役者はいろいろな職業、人間になれるのが魅力だなんて思いますね」
近藤「実際の現場がまた楽しいんです。現場を経験すると、ますます役者の仕事の魅力に引き込まれていく。もっともっと先に進みたいと思います」



大塚公祐

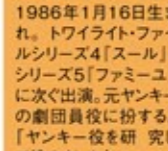
近藤あい子

小島美智子

片岡貴志



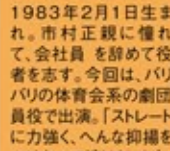
1981年8月15日生まれ。トワイライト・ファイル5「フォーク&バレット」に次ぐ出演。今回は、金融会社社員役で出演。「作品のなかで一番ダメな人間を演じています(笑)」



1984年9月24日生まれ。本作品でスクリーンデビュー。子役経験のある劇団員役で出演。「どう演じるか悩ますぎてわからなくなるくらいでしたが、いざ本番に入ったら集中してできました」



1986年1月16日生まれ。トワイライト・ファイルシリーズ4「スール」、シリーズ5「ファミユ」に次ぐ出演。元ヤンキーの劇団員役で出演。「ストリートに力強く、へんな抑揚をつけないで演じました」



1983年2月1日生まれ。市村正親に憧れて、会社員を辞めて役者を志す。今回は、パリの体育会系の劇団員役で出演。「ストリートに力強く、へんな抑揚をつけないで演じました」

※小夜の不思議な力により、それぞれの心の内側を告白するシーン

主題歌アーティストもオーディションで決定!

デュエット曲でデ☆ビュー!

「何が足りないのかプロデューサーにアドバイスされました」(北田)
「審査員も歌を聴いてくれる人、だから楽しませたい!」(木野)



北田裕美子
1984年9月21日生まれ。

木野悠毅
1982年3月3日生まれ。

北田「今まで1次は通っても、その後いつも落ちていたんです。で、自分には何が足りないのかプロデューサーに聞いたときに、自分は想いを出しているつもりでも、人は伝わっていないかというのをアドバイスされたんです。自分は赤と伝えていなかったので、相手にはピンクくらいにしか伝わってない。それからもっと強調して表現するようになって、引込み思案も直し自分をうまく出せるようになった。それが良かったのかも知れません」
木野「僕はオーディションでは審査員してくださる人たちも僕の歌を聞いてくれる人なので、その人たちの楽しませたい、魅了したいと考えて歌いました。もちろん、初めてオーディションを受けた頃は緊張してガチガチでしたけど、経験と自分を磨く努力を重ねていくことでできるようになりました。今はあまり調子に乗らないようにして、このチャンスをしっかりこなして、次に繋げていきたいと思っています」
北田「私も与えられたことを全力でやりきり望まれた以上を返したいです!」